

まぐの話題

柿ジャム作り



11月5日、潤徳小3・4年生18名が柿のジャム作りに挑戦しました。これは下名連石自治振興会が取り組む、県の「子ども

朝日鐘のなる学校

11月20日、旧朝日小学校で「鐘のなる学校」が開かれました。朝日自治振興区未来部が企画した第3回目となるこの学校では、童謡教室、グラウンドゴルフ、スケッチ教室が開催され、今年地域の方々とともに、清和小学3年生とその保護者も参加しました。開校式後の童謡教室では、星野ひな子さんの「おてもやん」などの民謡から「また君に恋してる」のポピュラーソングまで幅広い歌唱力が披露されました。少しはやくクリスマスソングを会場一体となつて歌いました。



最後にみんなで合唱しました。

ポピーの会人形劇

11月25日、矢部小学校で毎週木曜日に読み聞かせを行っているポピーの会が、人形劇を上演しました。全校生徒が集まった矢部小ホールで、ポピーの会メンバー9名、さらに校長先生、教頭先生も参加して、人形劇「ランパンパン」を上演。練習を重ねた成果が出て無事終了。生徒から大きく温かい拍手を受けていました。



校長先生は王様役で登場

早期開通に向けてアピール



中村紘二商工会長(右)が建設にむげがんばろうを三唱

九州横断自動車道延岡線の建設促進地方大会が11月5日御船町で行われ、山都町をはじめとする熊本県側、そして宮崎県側から沿線住民約500名が参加し、早期開通に向けたアピールを行いました。熊本県側・宮崎県側の沿線住民の意見が発表され、会場から大きな拍手が沸き起こりました。また、延岡青年会議所から「命の道をつなぐ会」署名活動において、目標としていた21万8千人以上の署名が集まったことが報告されました。これを受け、九州横断自動車道延岡線を通称として「九州中央自動車道」とすることが提案され、全会一致で承認されました。

下西地域の未来を語る

11月18日、下矢部西部地区農村環境センターでは、地域の未来への第一歩となる話し合いが行われました。下矢部西部自治振興会が開いたこの「地域を語る会」。コーディネートとして(有)ひとちいき計画ネットワーク代表の佐伯謙介氏を迎え、集落の役員や各団体の役員の方が5つの班に分かれ、地域の資源を掘り起こし、経済活動や地域おこしにつながるアイデアを出し合いました。



いろいろな意見が出たようです。

矢部大矢荘ふれあいカフェ

11月9日、熊本市の洋菓子店「シエ・タニ」が、矢部大矢荘内に一日限定でOPENしました。これは、矢部大矢荘秋の文化祭の一環で開催された「シエ・タニ秋のふれあいカフェ」です。「シエ・タニ」人気No.1の生チョコケーキや、プリンやチーズケーキなどの、口溶けがよく入所者に配慮した食べやすいケーキが用意されました。矢部大矢荘入所者の方やその家族、光露館、すみれの入所者も訪れ、カフェ店員となった大矢荘職員の方々がケーキと飲み物のオーダーを取ります。本格的なカフェの雰囲気なかで



おいしいものは自然と笑顔になります。

大矢入植記念碑が化粧直し

昭和23年、当時の熊本県開拓基地農場出身者と、富山県出身者などが入植した清和地区大矢その入植1世から3世のみなさん42名が、11月10日、化粧直された入植30周年記念碑に勢揃いし、開拓の魂を将来に語り継ぐことを誓いました。富山市から入植した海内克美さんは、「35名を越える人が入植したが残ったのは6名。その6名で開

墾し、陸稻やトウモロコシなどを栽培したがなかなかうまくいかなかった。農道や水道整備を町と協力し、県などと協議を繰り返したことを思い出す。」と当時を振り返りました。現大矢区長の荒木敏雄さんも2世で、「ここを憩いの広場として活用したい。1世の方が元気なうちに後継者が入植当時の話を聞き、特徴のある農産物の栽培などの取り組みを展開していきたい」と大矢地区の将来について話してくれました。

郷野原井無田バイパス開通



県道河内矢部線の郷野原く井無田間のバイパスが開通し、11月26日記念式典が行われました。これは県が平成16年度から行っている事業で、上轟木橋を含む全長700m、総事業費は7億5千4百万円です。



勢揃いした大矢のみなさん

開通神事につづいて、大濱光昭さんご家族と松本剛之さんご家族の2家族が、3世代夫婦そろつての上轟木橋の渡り初めを行いました。バイパスの開通により、郷野原から国道へのアクセスが容易になりました。